

日銀の視点

まち・ひと・しごと創生に向けた県内自治体の取り組みも、今年で2年目を迎えます。昨年10月末に県の人口ビジョン、総合戦略が決定、公表されたのを皮切りに、各自治体も人口ビジョンと総合戦略を決定しつつあります。今年、練り上げた戦略を本格的に実行する局面に移ります。

地方創生の柱の一つは、働く世代に対し、魅力ある仕事の場を提供し、U-I-Jターンの形で定住を促すことです。幸

鶴屋 洋一郎

日銀水戸事務所長

い、昨年以上期の本県の工場立地は、立地件数、立地面積、県外企業立地件数の全ての項目で全国第1位となるなど、2013年、14年と2年連続で全国第1位となった勢いが続いています。工場誘致で大きな成果を上げて

企業誘致の成果を、真に誇れる地域資源として、茨城の場合、他地域に誇れる地域資源として、豊かな自然環境を挙げることであります。休日不足を延ばせば、すぐに足が延ばせば、すぐにに緑豊かな里山や、きれいな砂浜が広がる海岸線があります。こうした自然の中で、家族と過ごす時間は、人生における掛け替えのない財産となります。

魅力度高め定住促そう

いることは、明るい材料といえます。

広域交通ネットワークの充実、日立、鹿島などの既存の産業基盤や、大

しかし、東京に近いことには、保育所整備などの子育て支援策、大学進学実績などの教育環境の高

「まち」の魅力を発信していくことで「まち」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」をつくり出すという流れが生まれてきます。

ある地域資源の魅力度を

(第2土曜日掲載)